

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）

研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題

「認知科学的転回」とアイデンティティの変容

研究テーマ名

創発的知性としての「群衆の智慧」：集団意思決定による社会と個人の変容

責任機関

国立大学法人京都大学

研究実施期間

平成29年10月～平成32年9月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者	齋木 潤	京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授
グループリーダー	内田 由紀子	京都大学・こころの未来研究センター・准教授
グループリーダー	阪上 雅昭	京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授
分担者	金谷 翔子	京都大学・大学院人間・環境学研究科・学振特別研究員（PD）
分担者	竹村 幸祐	滋賀大学・経済学部・准教授
分担者	鹿内 学	株式会社シンギュレイト・取締役

配分（予定）額

（単位：円）

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
2,600,000	5,167,500	4,095,000	1,300,000

※平成30年度・平成31年度・平成32年度については予定額

研究目的の概要

集団の意思は個人の意思の複雑な相互作用によって形成される。この実相を明らかにするには個人意思決定、集団意思決定の諸特性と、その創発機構の有機的解明が必要である。具体的には、認知科学、社会心理学、数理生態学、情報学の諸分野で注目されている「群衆の智慧（wisdom of crowds）」現象を取り上げ、集団意思決定がスマートな社会や個人を創成するための方策を、ICT技術が果たす役割に着目しながら多角的に解明する。

研究計画の概要

「集団意思決定によるスマートな集団・個人の創成」を目指し、具体的な仮説を設定したグループ実験、より現実に近い場面で検討するフィールド実験、これらの知見を説明する数理モデル構築を行う。グループ実験は群衆の智慧が成立する既知の状況から開始し、主観的価値判断を含む状況のモデル化と並行してより複雑な状況へと展開する。フィールド実験は、現実場面から開始し、ピープル・アナリティクスを用いた研究手法の開発に伴って、情報技術を用いて群衆の智慧を阻害する社会要因を低減する方策を検討する。